

合同会社 発酵人間との共同研究について～酵素風呂による痛み軽減効果の検証～

本学では、地域課題の解決を目的とし、地域の教育研究資源を活かし、企業や団体との共同研究を通じて新たな価値の創造と社会への貢献を目指しています。今回、京都府南丹市美山町で活動されている「発酵人間」様と共同し、地域資源である森林を活用した酵素温浴の健康効果に関する研究を開始いたしました。

背景

本学が立地する南丹地域は「森の京都」と呼ばれ、古くから森林資源を活用した産業が営まれてきました。しかし近年、森林産業は衰退傾向にあり、地域では新たな森林活用の在り方として、ヘルスツーリズムや健康関連事業の開発が模索されています。

そのような中、京都府南丹市美山町に拠点を置く「発酵人間」様は、地域のヒノキのチップや農家から出る米ぬかを活用した酵素温浴を提案し、森林資源を活かした新たな健康事業に取り組んでおられます。

酵素温浴を健康産業として発展させていくためには、その効果を科学的に検証し、有用性を示すことが重要です。そこで、本学鍼灸学部と発酵人間様が共同し、まずは「痛みを有する患者」に対する温熱効果について研究を進めることとなりました。

研究目的

痛みを有する患者に対しては、身体を温めることが痛みの軽減につながるということが知られています。近年注目されている酵素温浴は、おがくずや米ぬかの発酵熱を利用して身体を温める方法であり、温泉やサウナと比べて深部体温が上がりやすいことが報告されていますが、痛み軽減効果を科学的に検討した報告は限られています。本研究では、美山の森林資源を活用した酵素温浴を対象に、介入前後で痛みの変化を評価し、その有用性を明らかにすることを目的としています。

研究計画

2025 年度	温熱効果に関する文献調査および検証実験
2026 年度	学会発表・論文作成
2027 年度以降	結果に応じて、ランダム化比較試験（RCT）など大規模研究へ移行

研究概要

研究テーマ：酵素風呂による痛み軽減効果の検証

研究期間：2025 年 7 月 1 日 ～ 2028 年 3 月 31 日

共同研究機関：合同会社 発酵人間（京都府南丹市美山町大野文字がい地 5・2）

研究代表者：伊藤和憲 教授（鍼灸学部長、地域・産学官連携センター長）